



2013年5月14日

アベノミックス国際コンクール

公益財団法人 国際通貨研究所
理事長 行天 豊雄

アベノミックスのお蔭で久しぶりに日本発の話題が世界をにぎわしている。しかし、あちこちの国を廻って話を聞いていると、その反響にはかなり差があって面白い。

まず 80%共通しているのは「驚き」である。今迄、外圧がない限りはもっとも自発的な変化が起りにくいと思っていた日本が、何と欧米顔負けの強烈な金融緩和を自分でやり出すと云ったのだから、まず皆が一斉に驚いたのは当然であろう。

しかし、残りの 20%は国によって違う。IMF とか OECD という国際機関はアベノミックスに好意的で、日本経済がそれによって早く成長を回復することに強い期待を寄せている。米国は、そもそも自分の国の QE3 についても賛否があるわけだから、アベノミックスについても、とくに学者の間では、賑やかである。しかし、米国の態度は基本的には日本の大胆な実験を大きな興味と関心を持って見ているということだろう。成功すると思っている者も、失敗すると思っている者も、賞讃する者もいるが、構造改革を伴わないと長期的には弊害が出ると案ずる学者が相当いることも事実である。欧州で面白いのは、アベノミックスに対して好意的な驚きを示した上で、欧州も同じようなことをやるべきだろうかと問う人が相当存在することである。とくに、緊縮政策で苦しんでいる国に多いが、反面ドイツ人は懐疑的だ。

中国の反応も面白い。元来中国は日本経済の長期的停滞に対して、口には出さずとも、冷たい感じがあったことは否定できない。その日本が予想外の反撥を見せたのだから、中国が一番驚いたのかも知れない。その上で、中国の心境は警戒と期待と不安が入り混じったもののように見える。日本経済が再生に成功すると対中姿勢も変るのではないかという警戒、しかし再生すれば対中投資や対中輸入も増えるだろうという期待、そして強力な金融緩和が人民元高、ホット・マネー、輸入インフレ等の弊害を中国経済に及ぼすのではないかという不安である。しかし中国では日本経済を自らの教師または反面教師として学ぼうという気持が依然として非常に強い。だから中国はアベノミックスの成否について細心にフォローし続けるだろう。

幸い、株高・円安というアベノミックスのボーナスはまだ続いているが、日本経済はこれ以上のボーナスを期待するのではなく、本業の改善に本気になるべきであろう。円ドル相場も 100 円手前でストップしたように見えるが、それは「良い円安」の局面が一段落したと考えるべきである。

このところ、海外を飛び廻ってつくづく感じるのは、このアベノミックスは日本経済にとって最後のチャンスではないかなということである。

(株式会社マネーパートナーズへの寄稿)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2013 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokuchō 1-chōme, Chūō-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話 : 03-3245-6934 (代) ファックス : 03-3231-5422

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>